



第六十九号

# 会報浄土真宗太陽の会

## 「盂蘭盆会(うらぼんえ)」

令和元年八月十三日(火)太陽の会、三階本堂にて執り行われました。盂蘭盆会とは、お釈迦さまの弟子目連尊者の故事に始まり、亡くなられた有縁の人々を偲びつつ、仏法を弔問する法会であります。このお盆には、家族と一緒に命の尊さについて考え、いのちの尊さを教えてくれた身近な方に感謝し、私たちに道しるべを伝えてくれた阿弥陀さまに感謝を持つことが重要です。



本年も多くのご縁をいただきました。法要には、午前と午後合わせて述べ一八名の有縁の方々をご参集下さいました。



○午前の部 11:00~12:00

○午後の部 2:00~3:00

会員様と一緒にお経を拝読し、法話を聴聞しました。

御導師には、当

会僧侶の磯貝寛之師が務められました。



法話では、「生まれ変わりとはい」という題目で、日本人の約4割が「生まれ変わりを信じている」という内容から仏教での生まれ変わりはどのようなものなのか、輪廻転生(六道輪廻)の資料をもとに説明され、「六道の全てが迷いの世界で苦しみの無い世界へは自分の世界では到底たどりつけないわが身を顧みると六道輪廻の因果は我欲をつのらせ作る日々、阿弥陀さまはこんな私たちでも一人残らず極楽に救い摂つて下さる、本願他力の道を成就されました。」と阿弥陀さまとの尊いご縁をお話しく下さいました。

# 「広島市 太陽の塔 高天原」

お盆の供養祭、盂蘭盆会として令和元年八月十一日(土)、十二日(月)の2日間太陽の塔 高天原 法要室にて執り行われました。太陽の塔 高天原では、十一日午前の部で、真言宗の供養祭、十一日午後、十二日午前の部、午後の部と浄土真宗での盂蘭盆会を開催し多くの会員様にお越しいただいております。

ご法話いただいたのは、十一日が真言宗 妙光寺 岸野先生、十二日の午後の部は浄土真宗 本願寺派 万福寺 上野先生からそれぞれお話いただきました。



# 「広島竜王院」

広島竜王院では、盂蘭盆会をはじめ様々な法要をさせていただき会員の皆様とのご縁をいただいております。



～お知らせ～ 秋彼岸法要 高天原

9月22日(日)10時～[真宗]/1時～[真宗]

9月23日(土)1時～[真言]

# 「クイズ浄土真宗」

Q、浄土に生まれた人は？

- ① 仏となって、日夜、私たちを救おうとしている
- ② 安らかに眠っている
- ③ 悪いことをすると罰をあてる

「極楽浄土というぐらいだから、毎日愉快に暮らしているんだろう」と、思う人がいるかも知れません。しかし、極楽の楽は、法楽といって、真理を味わい、心が満ち足りた状態になることで、決して浮かれた楽しさではありません。

それでは、どうなるのかと言えば、阿弥陀仏の



救いを信じて亡くなった方は、時を隔てず浄土に生まれ、阿弥陀仏と同じ仏になられているのです。しかも、浄土に止まって、一日中、眠っていたり、お花畑で蝶々をおいかけまわしたりはされません。仏となられたのですから、当然、迷い続ける私たちを救うために、はたらき始められるのです。

このように、亡き人が浄土に生まれて仏になられるのも(往相)、また、浄土から再びわれわれの世界に還ってきて、救いの活動をされるのも(還相)、すべて阿弥陀仏のはたらきによるものであり、それが阿弥陀仏の救いの内容なのです。気になる人を放つておいて、自分だけ浄土で安穩と暮らすことなどできないのが私たちの心情です。それを解決してこそ、本当の救いと言えるのでしょうか。③のような罰をあたえることは、諸々の仏さまはなさいません。

Q、浄土に生まれた人は？

クイズの答え・①

## 「歎異抄を読む」 たんにしよう

『歎異抄』は、親鸞聖人が亡くなった後、門弟の間に真実の信心に背く異議が生じたことから、聖人から口伝を受けた著者が、同心の行者の不審を除くために著した親鸞聖人の言語録です。

往生をばどぐるなりと信じて

念仏申さんと

おもひたつこころのおこるとき、

釋蓮如(『歎異抄』第一条)

まことの言葉を受け容れた時

生きる方向が定まる

念仏という行為の見返りとして救いが与えられるのではない。阿弥陀さまの言葉をまことと受け容れた時、救いが成立するのである。救いとは、すなわち生きる方向が定まることである。

## 「お袈裟(けぞ)」

真宗の門徒が、法要や儀式に参加するときつける門徒式章や略肩衣を「お袈裟」と呼ぶ人があります。形が、僧侶の着用する輪袈裟に似ているので混同しやすいようですが厳密に言えばお袈裟ではありません。

袈裟とは、ひとくちに言うくと、布を縫い合わせてつくったインド古代仏教以来の僧侶の服装で、これを着用するのがならわしとなりました。したがって、袈裟をつけるのは、正式に得度を受けたお坊さんにかぎられるのが、伝統です。

門徒式章も略肩衣も、肩依を変化させたもので「す。肩依は真宗の門徒が仏前に参上するとき、最高の敬意のあらわれとして着用した伝統あるものなのです。今も江戸時代の習わしどおり、お寺の報恩講や、大切な法要の時に肩依が用いられている土地もあります。



## 「たたみ袈裟」

たたみ袈裟は、字のとおり、僧がおつとめるときに着ける五条袈裟を折りたたんで、首からかけるよう工夫されたもので、江戸中期からのものです。だから、たたみ袈裟は、中にうすい生地が織り込まれており、広げるとそのまま五条袈裟になります。

## 「月のことば」六月～八月

太陽の会では、館内入口・本堂入口に「月のことば」を掲載させて頂いております。お経は難しいと思われる方もいらっしゃると思いますが、身近なやさしいお経として皆様のお心で味わって頂けたら幸いです。

## 【六月のことば】

無碍の光明

信心の人を

常に照らしたもう

「尊号真像銘文」より

無碍の光明は、常に照らされている光明です。しかし信心を持たない人には、無碍の光明は存在しません。手を合わせて南無阿弥陀仏と念仏申す人にこそ、「つねにてらしたもう」という実感があるのです。

## 【七月のことば】

浄土真宗のならいには

念仏往生ともうすなり

「一念多念文意」より

浄土真宗の教えは、念仏往生です。一念往生・多念往生とを争うようなことはありません。

## 【八月のことば】

涅槃の真因は

ただ信心をもつてす

「顕浄土真実教行証文類」より

私たちは自身の力で煩惱を一つずつ潰して涅槃をめざすのではなく、ただ阿弥陀さまの力を頼りにすれば良いのです。



## 浄土真宗 太陽の会

## 令和元年 行事予定

## ○報恩講 合同追悼法要

開催日 11月16日(土) 11時より

(宗祖である親鸞聖人の御恩に報いて集まる法要です。親鸞聖人は、弘長2年・1262年の11月28日にお亡くなりになられたので、11月に報恩を勤めます。浄土真宗、第三世の覚如が報恩講式をつくったのが始まりで歴史ある法要となります。)

※法事やお斎(会食)の会場貸の予約を承っております。込み合う時期がありますので、早めのご予約お願い致します。なお法要室は宗旨・宗派を問わずご利用いただけます。(法務担当者)

